

小学1年1組 国語科学習指導案

指導者 中村紀恵

登場人物のせりふを考え、ペアで話し合い、学級全体でせりふについて話し合ったことは、場面の様子を押さえながら想像を広げて読む力を高め合うことに有効であったか。

1 単元名 想像して読もう ～「だって だつての おばあさん」を通して～

2 授業の構想

(1) 子どもたちは、文字の習得とともにそれまでの読み聞かせから自分の力で本や文章を読むことになる。自由に空想や想像の世界を膨らますことができるこの時期の1年生にとって、自分の力で文章を読み取り、「もし～」の世界で想像に浸って楽しむことは、これからの生活を豊かにすることにつながるであろう。本単元の想像して読む力をつけることが重要になってくるのである。

本学級の子どもたちは、話すことが好きな子どもが多い。絵を見て想像して話したり、読み聞かせをして、本の内容について感想を話したりすることも好きである。「くじらぐも」の学習では、「くじらぐもや子どもたちになって楽しもう」というめあてで、動作化を取り入れ、実感をともなった言語の習得と、想像の世界を広げたいと考えた。子どもたちは、登場人物のせりふを想像して書き込んだり、動作化をしたりしながら、それぞれの登場人物になりきって気持ちを考え、言葉に表して想像の世界を楽しんだ。次の文は、子どもたちが、くじらの応援を受けてジャンプをする場面を学習したときの児童Aのふりかえりである。

くじらぐもには、とどいたとおもうけど、もっと大きなこえでいっぱい（こえを）たすと、くわしくきこえとおもいます。げきをしてみたら、すごくすごくみじかかったけど、すごくすごたのしかったです。（児童A）

児童Aは、動作化を取り入れたことが楽しく、「今の声よりもっと大きな声で言わないと、くじらぐものところまで届かないよ。だんだん大きく言うといいよ。」と考えていた。グループで役割読みの発表をしたとき、あるグループの児童Bが言った「くじらは大きいから大きな声で言うけど、子どもは普通の声でいい。」という発言を受けて、みんなで話し合ったあとのふりかえりである。児童Aのように、話し合いのあと、さらに学級全体で動作化したことで、「大きな声が元気が出るよ。」というようなふりかえりをする児童が多く、登場人物の気持ちを音読で表現していくことを楽しむことが多くなってきている。こうした学習をふまえて、さまざまな物語に出会った時も、想像を広げる読みの力をつけていく子どもを育てていきたい。

(2) 本単元は、登場人物の行動や場面の様子を読み取って、ペアや全体で話し合った登場人物の気持ちをもとに、想像を広げていくことをねらいとしている。教材は、98才のおばあさんと1匹のねこが登場するファンタジーである。98才のおばあさんは、「だって、おばあさんだもの。」と、ねこのさそいを断るが、99才の誕生日にローソクが5本しかなく、それを数えたおばあさんは、「だって、5才だから…」となり、「5才ならつりもできるし、川も飛び越えられるわ。」と、ねこといっしょに5才を楽しむという話である。98才のおばあさんが、誕生日を迎えて5才になり、とたんに子どもと同じ行動をとっていくというところでは、現実と空想の世界が一つとなり、子どもたちは99才の姿をしたおばあさんの活発な行動を想像して楽しむことができるであろう。「5才ってちょうちょみたい。」という表現から無邪気に楽しむおばあさんの様子や気持ちを想像することが期待できる。今まで学習した物語が、主人公そのものの変化がない教材であったことに比べ、本教材は、主人公のおばあさん自身が変化していくという特徴をもっている。その点で子どもたちが初めて出会う教材であり、少しハードルが高くなるであろう。しかし、同じ「だって…だもの。」や、「だって…だから」でも、「…」に入る言葉が違えば、

発想が違ってくることができ、この言葉の使い方を考えることで、同じ人間でも気持ちの持ち方だけで、元気が出たり、いろいろなことができるようになったりもするということを読み取ることもできると考える。また、本教材は、現実から空想の世界への変わり目が分かりやすく読者が空想の世界へ入りやすい文章構成になっているところもよいところである。特に98才の場面と誕生日の後の場面对比はこの文章の面白さを引き出している。言葉や文の形態もよく似ており、対比がしやすい。1年生は、登場人物に同化し、読みと表現が一体化する動作化や音読をする中で、読む力をつけていく。上記の教材文の特徴から、本教材は動作化を取り入れやすい教材であるといえる。11年間を見通して1年生でつきたい読みの力である、登場人物の行動を読み取り想像を広げ、進んで表現する力をつけるのに適した教材であると考え。本単元で獲得した想像を広げる読みの力は、さらに子どもたちが読みを深めていくことにつながるであろう。

(3) このような本単元の教材のもつ性質と本学級の児童の実態をふまえた上で、単元を以下のように展開する。第1次では、子どもたちの「だって…」集めをする。子どもたちがよく使う「だって…」を出し合い、どんなときに「だって」を使うのか考えることで教材への興味を高める。そして、教材「だってだってのおばあさん」に出会い、初発の感想を書く。子どもたちは、ローソクが5本になっただけで99才のおばあさんが5才になってしまうというありえない話の展開からおもしろさに気づくであろう。

第2次では、物語のおもしろさを追求するために、誕生日の前、誕生日の日、誕生日の次の日の3つの場面のおばあさんとねこのやりとりを読み取る。読み取りの手段として、ペアで相談しながらねことおばあさんそれぞれのせりふを本文の言葉に続けて書き込む。次に各自が書いたせりふをペアで出し合い、ペアで一人がねこ役、もう一人がおばあさん役になり、せりふを考えて役割読みをするペア学習を主な活動とする。ペアで会話を楽しむことにより、相手の話を聞いて思考・判断し、せりふとして返すことで表現する力が育つ。登場人物が2人であることから、ペアでの学習をする必然性をもっている教材なので、ねことおばあさんの役を交代しながら声に出してせりふを考えることにより、場面の様子や登場人物の気持ちを想像していきたい。次に工夫したせりふを考えているペアを提示し、子どもたちにとっていいなと思ったところを自由に出し合う。どこの文からそのせりふを考えたのか学級全体で話し合うことで、言葉から場面の様子や登場人物の気持ちを想像し考える。ペアで考えたせりふを共通の土台として学級全体で話し合うことによりさらに想像を広げ、5才になったおばあさんの気持ちを共有し合えるであろう。登場人物に同化し、ねことおばあさんになりきって会話を楽しむことで物語の世界に入り込み、想像を広げたい。低学年で身につけた共感的な話し合いは、高学年での話し合いの中でまずは相手の考えを受け止めて尋ねたり、自分の考えを述べたりする話し合いの土台となるであろう。

第3次では、読み取ったことをもとに、「わたしのだってだって物語」づくりをする。自分の将来を思い描き、気持ちの変化を想像して楽しむことは、読み取ったことを活用し想像の幅を広げることになるであろう。本教材の構成を生かし、1場面を「だって○才だもの～できないわ。」とし、2場面を「誕生日にろうそくが□本になりました。」とする。最後に3場面を「だって□才だから～できるわ。□才って～みたい。」として、3場面構成の、自分の「だってだって物語」を作っていく。そして自分の作った物語を紹介し合い、互いの感想を交流する。この活動を通して子どもたちがさらに想像の世界を広げて楽しむことを願っている。

本時は第2次の5時間目である。誕生日の次の日、ねこにつりにさそわれたおばあさんが「だって、わたしは5才だもの…といいかけて、「5才だからさかなつりに行くわ。」と誘いに乗り、さかなつりに行った場面を学習する。ペアで一人がねこ役、一人がおばあさん役になり、「おばあちゃんもおいでよ。」と「だって、わたしは5才だもの。あらそうね…」の部分に続くせりふを考え、役割読みをする。その際に第1次で作った表で3つの場面を視覚的に対比し、98才のおばあさんの気持ちを思い起こすことにより、おばあさんの気持ちの変化をとらえやすくする。そして、「5才って、なんだかちょうちよみたい。」と言ったおばあさんの気持ちを考える。「～みたい」という比喩表現に注目し、子どもたちなりに想像し表現できるようにしたい。おばあさんのわくわくした気持ちをいろいろな言葉で表現することで学級全体で共有し合い、想像を広げていきたい。さらに本時の「ちょうちよみたい」を場面の様子を

とらえて想像することで、次時の、とり、さかな、ねこそそれぞれになるおばあさんの様子を思い浮かべることにつなげていきたい。

3 展開計画（全9時間 本時5／9）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	「だってだってのおばあさん」に出会いあらすじをつかみ、学習の見通しをもとう	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「だってだってのおばあさん」を読み、感想を書く。 ・「だってだってのおばあさん」クイズをする。クイズで登場人物、場所、出来事を押さえ、3つの場面に分ける。 ・誕生日の前、誕生日の日、誕生日の次の日におばあさんがしたことを書き出し、表にまとめる。
2	ねことおばあさんのせりふを考えておばあさんの気持ちを想像しよう	3 4 ⑤ 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの場面のおばあさんの気持ちについて考えを出し合い、話し合う。 ◇誕生日の前、誕生日の日、誕生日の次の日のおばあさんとねこの気持ちになってペアでせりふを考え、ペアで考えたせりふについて全体で話し合いおばあさんの気持ちについて、さまざまな言葉で表現し合う。 ・家への帰り道でのおばあさんとねこのやりとりを想像する。 ・学習のふりかえりを交流し合う。
3	「わたしのだってだってものがたり」を作ろう	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・「だって〇才だもの…」「ろうそくが□本になりました。」「だって□才だから…。□才って～みたい。」に自分の想像した言葉を入れて自分の物語を作り、読み取ったことを活用する。 ・作った物語を紹介し合う。

4 評価計画

次	時	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	1 2	クイズに楽しく取り組み、お話に興味をもっている。	クイズをよく聞き、はっきりと答えている。	お話のおもしろかったところを書いている。	登場人物、場所、出来事を押さええている。	文の中の主語と述語の関係に気づいている。
2	3 4 ⑤ 6 7	ねことおばあさんの役になって進んで話し合おうとしている。	おばあさんの気持ちをペアで想像して話し合っている。	ねことおばあさんの言葉に続けてせりふを書き込んでいる。	ねことおばあさんの言葉を想像して読み、ペアで役割読みをしている。全体で役割読みのよいところを見つけて話し合っている。	
3	8 9	進んで自分の物語を作ろうとしている。	進んで自分の感想を話したり、友だちの感想を聞いたりしている。	「だってだっておばあさん」の学習を活用して物語を書いている。	友だちの作った物語を読み合い、感想を交流し合っている。	

5 本時の学習

(1) ねらい

誕生日の次の日のねことおばあさんの行動を読み取り、せりふを考えてペアで役割読みをして全体で話し合うことで、おばあさんの気持ちを想像して読むことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価（◎は学び合いのためのはたらきかけ）
1. 前時までの学習内容と本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時までのおばあさんのしたことが分かる表を掲示して、98才のおばあさんと比べながら考えることができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">誕生日の次の日のねことおばあさんの気持ちになって、せりふを考えよう。</div>	
2. ペアでねことおばあさんが言った言葉に続けてせりふを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣どうしのペアで、お互いにねこ役、おばあさん役になって話し合いながら本文の言葉に続くせりふ

ねこ：「おばあちゃんもおいでよ。さかながいばいつれるよ。」

おばあさん：「だって、……なんだか元気がでてきたわ。」

「5才って、なんだかちょうちょみたい。ひらひら飛ぶ気分だわ。」

・話し合いが進まないペア→

・早く考えたペア→

3. ペアの中から数組、全体の前で役割読みをして、考えたせりふのよいところを話し合う。

・「なんだかちょうちょみたい。くんくん、いいにおいだわ。」が、いいと思う。おばあさんのうれしい気持ちが出ていておいがするみたいだから。

・「野原には、ピンクの花や黄色の花もあってきれいだわ。」が、よかった。ちょうちょは野原を飛び回って、いろんな花を見るから、おばあさんもちょうちょのように楽しいだろうと思う。

4. 本時の学習のふりかえりをする。

・わたしは、ちょうちょみたいにふわふわとんでいるところを考えていたけど、〇〇君の「ちょうちょは、蜜を吸うよ。」という意見を聞いて、おばあさんも蜜をすったり、花に止まったりして心がうきうきしたんだろうなと考えられて楽しかった。

・〇〇君の発表を聞いて、ぼくは、前のおばあさんと比べてなかったけど、99才なのに98才のときより元気で、本当に5才になっているんだなあと思いました。

を考えることで、5才になったおばあさんの気持ちを想像させたい。

・野原に着くまでや、野原についたときの会話を想像できるとさらによいと声がけし、想像の広がりを期待したい。

・板書で「だって、だもの……。」を示し、に入る言葉が98才か5才かだけで発想が違い、今まで、98才だから何もできないと考えていたおばあさんが、5才になったと思ったことで元気になり、考えが変わっていることに気づくようにする。

・本文のせりふを何度も声に出して読み合うように声がけする。せりふが考えられなくても、どのように読めばいいのか考えてみるようにはたらきかける。

・ペアで考えながら、各自が本文に続きを書き込む。二人が同じせりふになる必要はないことを伝え、一人一人の想像を大切にしたい。

◎おばあさんの気持ちに迫るために「5才って、なんだかちょうちょみたい。」の部分を膨らませているペアを全体で紹介する。

◎誕生日の前のおばあさんと比べ変わっているところに目を向けるために、第1次で作った表を用意して比べやすくする。

◎よいと思った理由を合わせて発表することでおばあさんのうきうきする気持ちをさまざまな言葉で表現し共有する場を設定する。

・場面の様子から考えている子どもを取り上げ、全体で様子を想像し膨らませる。

・なんだか～みたいの表現も取り上げ、比喩表現にも触れる。

評価の観点（読む能力）

ペアで考えたせりふのよいところについて見つけ、どうしてよいと思ったのか理由を合わせて話し合っている。

【評価方法 発表・ふりかえり】

・友だちの考えたせりふを聞いて、思ったことを発表し、意見を交流させることで想像することの楽しさを味わい、さらに想像を広げることにつなげたい。